

2022(令和4)年度

事業報告書

一般社団法人アート・インクルージョン



目 次

1. 2022(令和4)年度事業成果と総括	3
2. アートによる自己表現＝創造事業 「つくる事業」(就労継続支援B型事業所の運営)	4
3. アートによる交流・協働事業 「つなげる事業」(アートプロジェクト事業)	8
(1)Aiを拠点としたアート・プロジェクト	
(2)地域と協働したアート・プロジェクト	
(3)他団体や障害をもつ人の家族との交流・協働事業	
4. アートによる仕事づくり事業 「仕事にする」事業	13
(1)グッズ・コンテンツ開発および販路の開拓	
(2)アートを仕事にするネットワーク環境形成事業	
(3)その他ソフトコンテンツ事業	
5. パブリシティとファンドレイジング事業 「つたえる事業」	16
6. 2022 年度決算	21

1. 2022(令和4)年度事業成果と総括

サービス管理責任者 深野せつ子

2022年度はコロナも3年目になり、世間の患者数は上がったり下がったりするものの、無闇矢鱈に恐れるということもなくなり、スタッフも出勤調整を行って密を避け、最大20人～25人までを上手に出勤できていました。また在宅の作業にも慣れ、報告もしっかりでき、自分で各自対応するなど、親の手を借りずにできる人も多く見られるようになりました。

また私が初めてAiに出勤した時の冬にインフルエンザが流行し、たちまち広がって、らら文化祭にはステージが成り立つかと思われるほど欠席者が出ました。文化祭終了後はほんの数人の人しかいない状況だったのを思い出すと、今回のコロナではいわゆるパンデミック状態にはならず、パートナーの対応も、スタッフの対応も格段の成長ぶりに、感心しました。さらに誰かがかかっても何かいう人もなく、それよりかかった人に心くばりしてくれて、みんな大人になったのだなとその成長ぶりがとても嬉しく思えました。

このことは、初めての受託事業であった日本てんかん学会学術集会でのアート企画でも、あの広い会場での設営と、会場内の活動、さらに活動後の撤収まで、一人一人が自ら積極的に参加して、自分の仕事をこなしている姿にスタッフが確実に成長しているのを実感できました。

スタッフ一人一人が落ち着いて自信を持って、Aiの活動に楽しんで参加してくれていることは、それぞれが自分のAiでの存在、立場を自認しているからではないかと思います。

そういう意味で困難なコロナという状況も実際は彼らにはいい体験、学びになったと思われます。それに加えて活動の場も施設内にとどまらず、積極的に場をひろげたり、内容も他の団体と一緒に活動したり、商品づくりもグッズの他に他の事業所とのコラボ商品を作ったりと多岐に広がり実績を上げて行くことができたことなど、課題はまだまだあるものの、全てに臨機応変にチャレンジしていくスタッフのたくましさを感じられた2022年度でした。

今年度のもう一つの大きな出来事として、読売新聞社の高倉氏が2年間に渡る取材の記事を書いていたいて、15回にわたる連載記事が掲載されました。この記事によって、外なる眼によって大いに刺激され、Aiスタッフにとってゆっくりでも、その人なりに「わたしがわたしでいられるところ」として存在していけるようにパートナーも未来のAiを確認することができました。本当にいい機会を与えていただきました。

2022年度の1年間、コロナ禍の中にも関わらず、大きく発展できましたのも、多くの皆様のご支援、ご協力のおかげと心から感謝しております。ありがとうございました。

2. アートによる自己表現＝創造事業「つくる事業」(就労継続支援B型事業所の運営)

(1)総括

2022年度末のアート・インクルージョン・ファクトリー(以下、Ai)の利用者数は33名。新型コロナウイルス(以下、新型コロナ)感染症予防として、昨年に引き続き通所時の検温や体調の確認、手指の消毒や手洗いの徹底、飛沫防止パネルの使用、通所人数を制限し事業所内での感染拡大防止に努めた。また、通所することに不安を感じるスタッフ(利用者)に対し、在宅サービスの利用を継続した。在宅サービス利用者との連絡には、電話やLINEを用いてコミュニケーションを図り、本人の希望や体調を細かく把握し、ご家族との情報共有や連携を取りながら支援につとめた。宮城県内の新型コロナ感染状況に応じて通所人数の制限を段階的に緩和。2022年7月中旬には制限を解除し、スタッフは自分の希望に応じて自由に通所ができるようになり、コロナ渦前の状況に近づけることができた。通所日数が増加したことにより、「不安が軽くなった。」「皆に会えて安心する。」「表情が明るくなった。」「生活のリズムを取り戻せた。」「元気、やる気が出た。」などの声が聞かれた。さらに、昨年度ZOOMを利用して行っていた講師によるプログラムは、4月より徐々に事業所内での実施へと転換した。

コロナ禍でAiギャラリーでの展覧会開催やステージ出演の機会が失われたことによって生まれたオンラインでの展覧会、トーク・ライブ企画を昨年度に引き続き月1回のペースで開催した。新型コロナにより家族同士の交流の場が失われている現状を受け、それぞれの家庭の抱えている悩みや課題、向き合い方などを共有し、互いに支え合っていく仕組み作りのきっかけとして2021年5月から始まったトーク企画「家族で話そう」を昨年に引き続き実施。トークゲストには、Aiスタッフの家族の方々をお招きした。

この他、スタッフが提案・企画し、主体となって参加する活動の機会を重視した。毎月発行のAiニューズペーパーの原稿制作や取材、写真撮影、オンライン企画の配信作業(PAやオペレーター)、MCなどにもスタッフが積極的に関わることにより、技術の向上にも繋がった。

地域交流事業として、2021年度に引き続きAiファクトリー@一番町を全5回実施。ぶらんど〜む一番町アーケード内に、事業所内で使っている机や画材、作品を設置し、スタッフによる公開制作を行いAiの日常を再現した。また、5名のアーティストによる展示企画を同時に実施し、作品を通して地域の人々との交流のきっかけへと繋がった。また、昨年に引き続き本町商店街が育てる米「恋する二人」の袋詰め作業や、MUSTARD SEED クリスチャン教会が主催するスタンプラリーイベントにボランティアとして参加。この他、仙台市のフードドライブ事業の運搬担当団体として、週1回イオン仙台店と藤崎百貨店からの食品回収ボランティアを継続。2022年11月からは2週に1回のペースで、仙台市市民活動サポートセンターからの食品回収を担当。食品回収には4〜5名のスタッフが、賞味期限のチェックにはさらに5名程度のスタッフが参加している。食品ロスへの関心や生活困窮者の存在を知るきっかけとなった他、「自分の仕事。」「誰かの役に立っている。」という声が聞かれ、積極的な関わりが見られた。

施設外での取り組みとして、昨年に引き続きNPO法人仙台市精神保健福祉団体連絡協議会が実施するピアサポーター養成講座を1名のスタッフが受講した他、集いに参加するなど、ピアサポートへの関心へと繋がった。さらに、2名のスタッフが仙台市社会福祉協議会が実施する仙台市障害理解サポーター養成研修を受講し、現在講師としての活動に参加している。事業所内での活動に留まらず、それぞれの関心や個性、能力を生かした取り組みによって、個々の可能性の広がりへと繋がっている。

2022年度の月別平均利用者数は以下の通り。(通所、在宅の合計)

月	2022年度	2021年度
---	--------	--------

4月	21人	26人
5月	25人	26人
6月	22人	22人
7月	21人	28人
8月	26人	26人
9月	27人	27人
10月	24人	24人
11月	24人	24人
12月	22人	24人
1月	24人	25人
2月	21人	23人
3月	22人	23人
年平均		

(2) Aiファクトリーの運営

パートナーとスタッフでつくるプログラム、外部講師とのワークショップ、Ai主催事業の企画・運営、他団体・地域の主催事業などへの参加を行った。

① パートナーとスタッフでつくるプログラム

- ・朝の会、帰りの会・制作タイム・商品作り・アート・プログラム・コミュニケーション
- ・フリートーク・本の時間・アロマセラピーのワークショップ・パフォーマンスデー
- ・ストレッチ・人形劇・映画デー・女子会、男子会・クリスマス会



②外部講師によるワークショップ

・手話 (zoom利用)・・2022年4月～月1回 12回実施

講師の穀田千賀子氏に協力頂き、オンラインでのプログラムを実施。画面を通してスタッフと向かい合う形での実施の為、スタッフが分かりやすいように、手話の手の向きなどを工夫いただいた。「大きなのっぽの古時計」、「切手のないおくりもの」などの歌を題材に用いて、楽しく取り組めるプログラム作りにご尽力いただいた。

・アートワークショップ・・2022年4月～月1回 全12回実施

講師の今野光一氏のサポートの元、スタッフが内容を理解しやすいものや、今までにやった事のないテーマを提案頂くなど、楽しく取り組めるようなプログラムを実施。それぞれの個性やペースに合わせた声掛けやサポートで、安心して取り組める雰囲気作りにご尽力いただいた。

・英会話・・2022年4月～全4回実施

講師のサミュエル・マーティン氏による色や食べ物、買い物などの身近なテーマを中心に、取り組みやすいプログラムを実施いただいた。一人ひとりのペースや反応に合わせた声掛けによって参加しやすい場作りにご尽力いただいた。

・音楽・・2022年7月～全9回実施

講師の及川久美子氏に協力いただき、体や顔のこわばりをほぐすストレッチや発声練習を実施。リラックスして参加ができる雰囲気の中、ハンドベルやマラカス、民族楽器などの様々な楽器を用いて、リズムを楽しむプログラム作りにご尽力いただいた。

・音楽・・2022年4月～全22回実施

講師の本郷由起子氏に協力いただき、レクリエーションや歌を中心に、楽しく参加ができる音遊びのプログラムを実施いただいた。一人一人の個性やペースに合わせて様々な題材を提案いただき、枠にとらわれない表現の時間作りにご尽力いただいた。

・クレイ粘土・・2022年4月～月1回 全12回実施

講師の松並京央子氏と補助の講師2名に協力いただき、粘土を使った制作を実施。スタッフとのコミュニケーションを大事にした関わりや、それぞれのスタッフの個性に合わせた細やかな気配りなど、スタッフが安心して取り組める環境作りにご尽力いただいた。制作した粘土作品は、熊手ワークショップにて飾りのパーツとして活用した。

・クリニカルアート・・2022年4月～月1回 全12回実施

講師の小野寺良枝氏に協力いただき、スタッフの個性とペースに合わせたコミュニケーションやスタッフが取り組みやすい制作方法を細かく研究いただき、様々な技法を取り入れたプログラムを実施いただいた。すずめ踊りの曲をかけながら扇の制作をするなど、楽しく取り組めるような雰囲気作りにご尽力いただいた。

・ことのはアート・・2022年4月～月1回 全12回実施

講師の渡辺祥子氏に協力いただき、ことばを、呼吸、表情、発声、リズムなどを使って全身で表現をする新プログラムを実施いただいた。スタッフ一人一人と対話をし、集中力を育む働きかけにご尽力いただき、スタッフ皆が同じペースで取り組むことができた。「おむすびころりん」、「大きなかぶ」、北原白秋の「お祭り」などの、楽しく取り組める題材のご提案によって、感性の広がりへと繋がった。

・タイルアート・・・2022年4月～月1回 全6回

講師の森敏美氏に協力いただき、モザイクタイルを使った立体作品を制作。50種類以上の美しいタイルをご用意いただき、その見た目の美しさを楽しんだり、手触りを楽しむスタッフも多かった。土台となる木のベースを様々な形にカット頂くなど、スタッフの創作ペースや個性に合わせたプログラム作りにご尽力いただいた。

・身体アート・・・2022年4月～月1回 全12回

講師の渋谷裕子氏に協力いただき、ストレッチや体の動きを意識したプログラムを実施。個々の持つ個性や感性を引き出すような働きかけにご尽力いただき、互いの動きを感じ取ることで、相互コミュニケーションへと繋がり、表現力を高める時間となった。

・ミュージックベル・・・2022年10月～12月 全3回

講師の村上氏の他、2名の講師の方々に協力いただき、ミュージックベルを使って「ハッピーバースデー」の曲の演奏に取り組んだ。スタッフが互いの音やペースに意識を向け、共に造るという空間作りにご尽力いただいた。また、クリスマスシーズンには演奏会を開催いただいた。

・凧作りワークショップ・・・2022年2月 全1回

講師の矢吹重光氏に協力いただき、折り紙で作れる凧作りワークショップを実施いただいた。スタッフの制作ペースとそれぞれの希望に合わせた作業工程や材料、デザインの提案をいただき、普段ワークショップに参加をしないスタッフが参加するなど、楽しく取り組める雰囲気作りにご尽力いただいた。

・運動の時間・・・2023年3月～ 全1回

講師としてフットサルチームヴォスクオーレ仙台のコーチに協力いただき、2022年3月より開始。ストレッチや筋力トレーニングをはじめ、ボールや障害物を使い、きつ過ぎず簡単すぎない、程よい負荷の運動を行った。スタッフの体力やペース、反応に合わせて、楽しく取り組めるプログラムの考案にご尽力いただいた。



③Ai主催事業の企画・運営

- ・アート・インクルージョン2022
- ・オンライン展覧会 & ライブ&トーク
- ・楽楽楽クリスマスマルシェ
- ・Aiどんどこ市
- ・Aiファクトリー@一番町
- ・Aiオープンスタジオ
- ・アートとしごとラボ2023





・オンライン展覧会・ライブ & トーク

Vol.21「ブルー」

Vol.22「ミッキー展」

Vol.23「結成10周年記念アイドル・インクルージョン」

Vol.24「インドネシアとつないで」

Vol.25「統也展」

Vol.27「アート・インクルージョン2022」

Vol.28「まいそーと3」

Vol.29「クリスマスライブ」

Vol.30「Y.S.展」

Vol.31「一平展」



④他団体・地域の主催事業への参加、受注作業

- ・みんなのマルシェin ブランチ仙台
- ・勾当台公園福の市
- ・ふれあい製品販売会
- ・Fujisaki Day
- ・メディアテーク見本市
- ・本町商店街収穫祭準備
- ・せんだいクラシックフェスティバル展示
- ・人形劇ワークショップ
- ・暮らしの市
- ・ともにみんなのアート展
- ・河原町マルシェ
- ・楽楽楽文化祭2023
- ・とっておきの音楽祭
- ・スペースゼロ・アーティストとアート・インクルージョンの表現者たち
- ・ウェルフェア仙台2022
- ・ぶらんど〜む一番町文化祭
- ・DIYスタジオマルシェ
- ・日本てんかん学会学術集会アート企画「わたしが わたしで いられるところ」
- ・マナビーフエスティバル
- ・DATENA SENDAI COLLECTION
- ・びすたーり榴ヶ岡での展示・販売
- ・小さな小さな美術館展示
- ・受注作業(エファシスト プロテイン袋へのシール貼り)
- ・受注作業(サボコマース 飴のラッピング)



⑤その他の活動

- ・東北楽天ゴールデンイーグルス試合観戦
- ・木下大サーカス鑑賞
- ・お花見
- ・防犯講習会
- ・避難訓練(救助袋体験)
- ・勉強会(講師:進藤伸一先生)
- ・家族会



3. アートによる交流・協働事業「つなげる事業」(アートプロジェクト事業)

(1)Aiを拠点とした交流・協働事業

①オンライン企画

コロナにより、アート・インクルージョンの発信・交流拠点Ai GALLERY・Ai STUDIOの通常運営が難しくなる中、それでも表現したい、発信したいというスタッフからの強い要望により、2020年6月から月1回ペースで試行錯誤を重ねてきた。2022年度までに累計31回となった。

最初は少数だった出演者もじょじょに増え、それにともなってコンテンツも歌やダンス、トーク、オンライン展覧会、新たな祭りの開催から、制作風景やライブペイント、マルシェやワークショップ会場といったオフラインとの中継、国内外からの映像レポートなど、実に多様な表現からなる企画へと変貌を遂げている。出演者についても、「家族で話そう!」と題してのスタッフのご家族を招いてのトークや、ご家族によるライブ出演、芸術工科大学学生によるショーや週末のオープンスタジオに参加している演奏家のステージ、インドネシアやパレスチナとつないでのレポートなど、さまざまな広がりを見せている。また、事前収録を行うなど、コロナに対応した体制を築いていく中で、オンライン配信や映像制作のスキルアップの場ともなっている。配信業務をどんまいネットみやぎから委託されているほか、ほっぷの森カレッジの企画「月いちカレッジ」の映像制作も委託されている。

オンライン個展では、表現が生まれたバックボーンを家族の証言などももとに掘り下げ、いったいなぜこんな表現が生まれているのかがわかりにくいアール・ブリュット系の表現についての理解を助ける取り組みを行うことができた。また事業所内でもそれらをもとに新たな支援の取り組みにつながるが多々見られた。さらに、家族に話を聞くという取り組みは「家族と話そう」という家族にフォーカスした企画に発展しており、当事者ばかりに目が行きがちな表現活動の中で、まわりの人々がどんな役割を果たしてきたのかを可視化する取り組みとなった。これまでにほとんどのメンバーを紹介するに至っている。

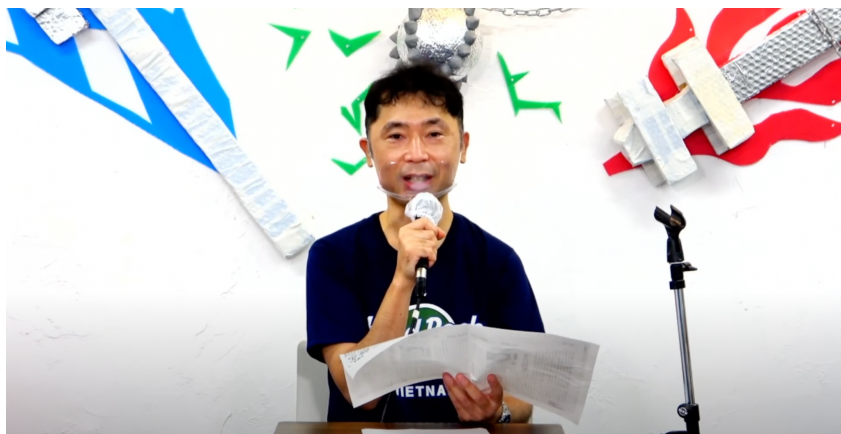
また、配信時間は5～6時間におよぶなど長尺のため、10分のダイジェストにすることで視聴者が増えるのではないかと短いアーカイブを20本制作した。

これらオンライン企画は、2020年度～2022年度まで3年間にわたり仙台市市民文化事業団の「多様なメディアを活用した文化芸術創造事業」の助成を受けて実施した。

<オンライン企画実施実績と開設したオンライン展覧会ウェブサイト>

配信日	タイトル	アーカイブアドレス オンライン展覧会アドレス	5/23現在の再生数
2022/ 4/23	「ブルー」	https://youtube.com/live/1K0hWGfunP0 https://kattsun.weebly.com/	243
2022/ 5/21	「ミッキー展」	https://youtube.com/live/uDrxob-Hrjo	174
2022/ 6/25	「”誰でもアイドル”目指して10年! アイドル・インクルージョンのすべて」	https://youtube.com/live/B1LEyDKAbxc https://idoleinclusion.weebly.com/	217

2022/ 7/16	「インドネシアとつないで」	https://youtube.com/live/muy6UeCKqag	<u>299</u>
2022/ 9/10	「続也展」	https://youtube.com/live/F3k6OcPra4c	<u>275</u>
2022/ 10/1	アート・インクルージョン2022「Ai 本祭」	https://youtube.com/live/3_NUCPyN7UQ	<u>441</u>
2022/ 11/3	「まいそーと3」	https://youtube.com/live/1wdQo2LpL8I	<u>215</u>
2022/ 12/10	「クリスマスを迎えたパレスチナ と結んで」	https://youtube.com/live/00P_txxnuvA	<u>314</u>
2023/ 2/25	「Y.S.展」	https://youtube.com/live/OSTm8C-OIRg	<u>290</u>
2023/ 3/25	「一平展」	https://youtube.com/live/yiBNMNkLT2M https://ippeiai.weebly.com/	<u>184</u>



②Aiオープンスタジオ

2022年4/9、5/1、5/7、5/29、6/4、6/26、8/11、8/28、9/3、10/2、10/8、10/23、11/12、11/27、12/25、2023年1/29、2/11、2/23、2/26、3/11、3/26の合計21回開催。

当初は「Ai週末アトリエ&カフェ」の名称で、「アート・インクルージョン・ファクトリーの施設Ai GALLERY・Ai STUDIOを活用し、対象をスタッフに限定せず一般に開放し、制作や交流、発信の場として活用、仙台におけるユニークなアート発信交流拠点を形成していく」ことを目指し、2020年4月スタートを予定していたが、コロナの感染状況の悪化により、2020年9月からのスタートとなった。「Ai週末スタジオ」として月1回のペースで実施。2021年9月からは、これに加えて、「Ai週末アトリエ」の名称で月にもう1日増やし、合計月2回、アートインクルージョンを開く機会を設けて行った。

これまで「何かをしなくてはならない」ことが暗黙のルールだったいわゆる創造現場に、「何かをしても何もなくてもいい場」として、「何もしない」という選択肢を持ち込んだ。ヒントとなったのは、「ドクメンタ15」の芸術監督に選ばれるなど世界的に高い評価を得ているインドネシアのアート・コレクティブのありようである。これと、市民が創造する権利を有するという文化民主主義の考え方に基づいて生まれたイギリスのコミュニティアートとをミックスするかたちで「Aiオープンスタジオ」のコンセプトはスタートしている。

2022年度は「Aiオープン・スタジオ」に改名し、月2回ペースで合計21回開催した。

本年度のトピックスとしては、「常連」が定着してきたこと、前年度に比べさらに多様な人々の参加（小学生から高齢者まで）があったこと、コロナが落ち着いてきたことを受け、食をテーマにした「Aiキッチン」を始めたことが挙げられる。特に、1月に行った「仙台雑煮づくり」は、一人暮らしで何年もお雑煮を食べていないという参加者から、深い感謝と感動を受け取った。このほか「ボーダレス映画祭」の映画の試写会など、居合わせた人との関わりの中で生まれるクリエイティビティを増幅する場になってきており、仙台におけるオルタナティブな創造の場を形成しつつある。2月に一番町で行われた「ぶらんどーむ一番町文化祭」（主催：一番町一番街商店街）では、コロナでずっと閉めていた施設を開ける契機になり、会期中にはいつもとは違う来場者も訪れた。すでに定着してきたこの事業は今後も仙台市中心部のユニークな創造拠点として継続していきたい。





③シェアスペース事業

使っていない週末の施設をシェアスペースとして提供していく事業。

- ・ドレミ音楽教室：月1回ペースでお借りいただいた。
- ・ボーダレス映画祭レセプションパーティ：3/20(金)夕方から実施。

(2)地域と協働したアート・プロジェクト

Aiを拠点としたアート・プロジェクトと両輪の輪とも言えるのが地域とのアート・プロジェクトである。コロナでいったんストップしていた商店街や文化施設、アーティスト、他団体との連携は2022年度後半からじょじょに再開させていった。

①一番町でのアート・プロジェクト

①Aiファクトリー@一番町

アートインクルージョンの日常自体を「展示」してしまおうというコンセプトで行われた2021年3月のせんだいメディアテークでの「アート・インクルージョン展」や、2022年の「日本てんかん学会」でのアート企画は、来場者に大きなインパクトを与えた。

その日常的な営みとして、アート・インクルージョンが位置するぶらんど〜む一番町アーケードにテーブルを出し、公開制作とグッズ販売を行う本事業は、道ゆく人との偶然の出会いがアートを介してコミュニケーションを生み出す地域との「扉」になっている。

2021年度は青葉区まちづくり助成事業を活用し、中心部の魅力づくり事業として計5回開催したが、2022年度は釋海心基金を活用し、精神の障害がある方の発表の場をつくる事業として計4回開催した(5回予定していたが、雨天のため1回中止)。



以下に2022年度助成を受けた釋海心基金への報告の一部を転載する。

①2022/04/27

- ・たかピーさんをフィーチャー
- ・準備期間 約1か月
- ・良かったこと
ん～、3Fにいるより楽しかった(笑)

いろいろな人の顔が見れてよかった

・次やるならこうしたい！

今回は展示していた粘土の作品を次回は販売してみたい

→欲しいという人がたくさんいたから

・印象に残ったこと

自画像など作品を見て、涙してくれた人がいた。(驚いた)

Aiに仕事を依頼したいという人がいた

・感想(本人):今回は座っているだけだったが、通行人の方々といろいろなお話しができて、とても楽しかった！！

・感想(河田):たかपीーさん、準備段階から終わりまで「トップバッターが、ワシでいいのかな...」と控えめでしたが(笑)、アーケードに自分のコーナーが完成し、道行く人とお話しを始める、さすがアーティスト！とても素敵に作品の紹介をしていました。作品を笑顔で見てくださった方、涙してくださった方、粘土作品を見て「なんかいる～！！」ときゃっきゃしていたちびっこ。たくさんの方々に作品に触れていただけたことで、今回こういったコーナーを設けることができてよかったなと思います。アーケードの賑やかさに負けないディスプレイを考えるのが個人的には難しい点でした。

②2022/6/29

・チョコ♡チャコさん、King.Kさんをフィーチャー

・チョコ♡チャコ展示:額絵3点、ポストカードサイズ4点、タイルアート3点、なんでもありのバラバラノート

・チョコ♡チャコさん感想:展示ができてよかった。アーケードを通るたくさんの人に見てもらえてうれしかった。郡山のおばあちゃんも見に来てくれて、お母さんと3人で写真を撮れたのも嬉しかった。

・チョコ♡チャコさん家族の感想:このような場で展示でき、沢山の方に見てもらえてよかったです。

・青山の感想:これまでは体調が不安定なこともあり、展示の機会を持つことが難しかったですが、今回は展示に向けて少し行動することができました。過去に描いた作品と比較的新しい作品の中から、特に気に入っているものをチョコ♡チャコさん自身が選びました。

祖母には特に見てもらいたかったようで、展示を見てもらえたことがとても嬉しかった様子でした。暑さの中での開催の為、体調が心配でしたが、首に保冷剤を巻き、無理をしない範囲で展示コーナーに滞在できました。

・大塚:10時開始直後は人通りも少なくお客さんの入りも少なかった。おかげでメインアーティストの一人のKing Kが落ち込んで、似顔絵コーナーを引き上げてしまった。人通りが多くなってくるとグッズコーナーに足を止めるお客さんも増え、手応えを感じた。また、かつんの青い絵100号を飾っていたところ、「これが赤だったら50万円でも買う」といった方もいたそうで、今後を感じさせる良い展示ができたと思う。

③2022/10/26

・海魚爬TONさんをフィーチャー

・展示作品:プリント額絵(デジタルA0サイズ)1点、ポストカードサイズ手描き画複数、雄勝石プレート絵画1点、三陸の古生物レポート、羊毛フェルトマスコット(古生物・タコ)、絵付け貯金ダコ(オクトパス君)、オリジナルマスク

・本人感想:立体、額絵、雄勝石の古生物アートやレポート、ポストカードなどを展示しました。今回は、新作の魚竜マスコット「ホソギョちゃん」の巨大プリント額絵を展示しましたが、アーケードの中で道行く方々に作品を見て頂けてうれしかったです。また、応援している南

三陸の公式キャラクター「オクトパス君」の貯金箱へ描いたファンアートも展示しましたが、それを見て反応してくださる方々がいたことも楽しかったです！もともと緊張しやすいところがあるので、目の前で見てくださる方々とお話で交流するということは、できなかったのですが、心の中ではすごく喜んでいました！

・青山感想：展示に向けて、こつこつと制作を進め、制作過程をととても楽しまれているように感じました。優しい表情と鮮やかな色使いで表現された古生物作品は、アーケード内でもとても目を引き、道行く多くの人が足を止め、質問したり熱心に見ていかれる方が多かったのが印象的でした。また、若い女性二人組のお客さんから作品の感想を伝えられ、頷きで返すなどの交流がありました。海魚爬TONさんは、緊張して何も言葉を返すことができなかったが、感想を直接聞けたことが嬉しく、いい経験になったとお話されていました。見ていた私からは、言葉はなくても女性たちと海魚爬TONさんとのコミュニケーションは表情や身振りや空気によって十分に成立していたように感じました。触れあいもあったことで、展示がより充実した経験となったのではないかと思います。また機会があれば展示に参加したいということでした。

④2022/9/7

・白戸健さんをフィーチャー

・白戸健感想：人前で展示しながらライブペインティングのようなことは初めての経験で、なかなか体験できないことなのでよかったです。足を止めて見てくださった方に説明できたことは楽しい時間でした。

・パートナー感想：展示に向けてデジタル作品を中心に新たな作品制作に取り組まれました。額装や当日の展示も積極的に行い、「自分の展示を自分で作る」という関わりがありました。アーケードでの展示や公開制作を通して、道行く方々とのコミュニケーションにもつながっていました。

②「Aiどんどこ市2022」

「Aiどんどこ市」は2013年、勾当台公園を会場にアート・インクルージョンがコーディネーター役を務め、地域の福祉事業所の工賃アップや相互交流を目指した取り組みとして始まった。2014年からは仙台放送祭りと共催し、多数の福祉事業所・アーティスト・クリエイターと連携し、日頃交流のない人々が互いの活動を知るとともに、多くの市民に活動を紹介する場として成長していった。その後、ぶらんど～む一番町アーケードへの移転をきっかけに、2018・2019年は約30団体による活動展示・販売、25組のアーティストによるステージ、アートワークショップを5月末の週末に2日間開催した。2020年はコロナの影響で中止、2021年度も開催が危ぶまれたが、感染状況が落ち着いた10月31日ハロウィンの日にサンモール一番町での開催でした。

こうして迎えた2022年のAiどんどこ市は、再びアート・インクルージョン前のぶらんど～む一番町で開催。出店者25、ワークショップ6企画のほか、パレードやスタンプラリーを行なった。ステージはコロナ感染を警戒し、行わなかったものの、これ以外についてはコロナ前の盛り上がりと同様、ワークショップについてはコロナ前よりも企画者が増え、多くの人が参加した。



アーケードににぎわいが戻って来た



みんなで大きなお城を作るアートワークショップ



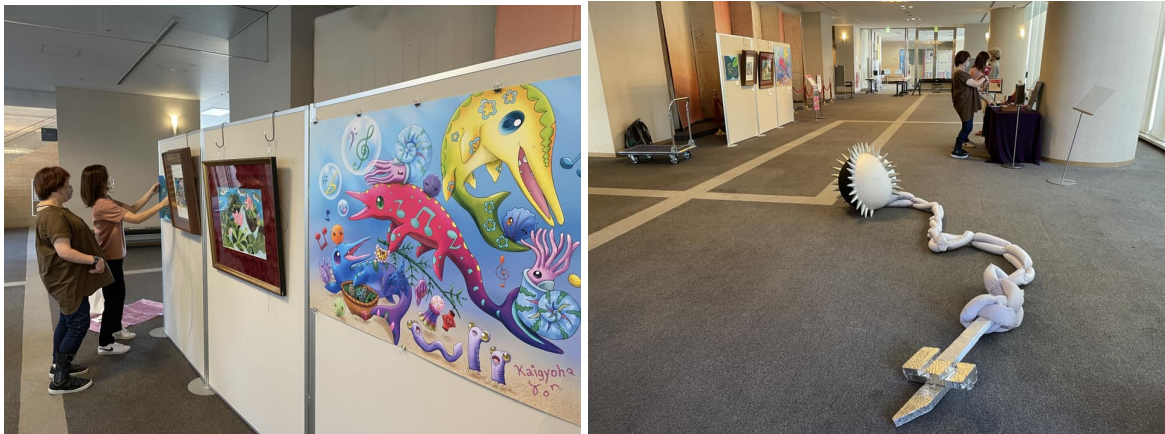
人形劇パレードとマルシェ

②長町での事業:アート・インクルージョン2022

2010年の初回から数えて13回目となる「アート・インクルージョン2022」を仙台市太白区長町一帯で10月の一ヶ月間、開催した。

せんくら×Ai2022

「楽都仙台」の「看板」のひとつとも言える仙台クラシックフェスティバルとの連携事業として、2015年から太白区文化センター楽楽楽ホールホワイエでの展示を担当している。2015～2019年の5年間にわたり、「音を出さずに音をテーマとした体験型のアート企画」をコンセプトとした作品制作を行い、「かぶれる音符」「着られる弦楽器」「のぼせる管楽器」「入れる鍵盤」「抱きギター」など数々の名作を生み出して来たが、コロナで接触するものを避けなければならないこと、アートインクルージョンの表現者ひとりひとりの作品を前面に押し出すことで多様な価値観を発信したいという新たなコンセプトを提案したところ、快諾され、2020年の休止を経て2021年からアート・インクルージョンの表現者たちによるグループ展形式の展示を行なっている。2022年はmichiko、海魚爬TON、石川法然、たかピー、小野統也×ささきかつらの5人・組が平面や立体作品を出展、好評を博した。出展者自らが出向いて設置も行なった。



Ai month(2022年10月1日～11月4日)

コロナのために、2020～21年度の2年間は、商店街の10数店舗と連携して行ってきたまちなかでのプロジェクト「Aimonth」は休止し、「Ai本祭」と仙台クラシックフェスティバルとの連携事業のみの開催だったが、2022年度は「Ai month」をゆるやかに再開した。中心となって取り組んだのが、2022年夏からアート・インクルージョンにパートナーとして加わった高倉悠樹と洞口真喜子である。

・会場: 食堂び～わん、だがしハトヤ、エンドー時計店、赤井沢長町本店、ファッションウェアたむら、おいしいパン屋さん、びすた～りフードマーケット、cafe JHO JHO、菓子工房セレブレ(合計9店舗)

・企画概要

【び〜わん】窓面における平面作品展示、ポストカード設置

【エンドー時計店】ショーウィンドウ部における平面作品・映像作品のインスタレーション

【赤井沢長町本店】店舗内柱上部におけるインスタレーション、オリジナル文具販売

【ファッションウェアたむら】店舗外掲示板における平面作品の展示

【だかしハトヤ】店舗で販売されている玩具(ペーゴマやめんこ等)を利用したワークショップ

【おいしいパン屋さん】2016年ころに制作した壁画

【びすた〜リフードマーケット】みさこの平面作品

【cafe JHO JHO】かつつの平面作品

【菓子工房セレブレ】チョコチャコの平面作品

・状況報告(高倉悠樹)

【ハトヤ】

各回のべ15~20人程度が参加。参加者は主に子供(幼稚園~中学生)だが、付き添いの大人や近所に住んでいるハトヤの常連、遊びに来たAiスタッフ・パートナーなどさまざま。Aiスタッフ「たかピー」が型抜き遊びやオリジナルめんこづくりの運営・管理、ハトヤ店主が輪投げ遊びや遊び方説明を担当。子供たちは最初遊び方をまったく知らなかったが、一度教えてみると夢中になってめんこやコマに没頭し、あたらしく来た小学生らに教えてあげていた。たかピーからは「企画が終わったあともハトヤとの関係を継続したい。ハトヤを手伝いに行きたい」というような言葉があり、他イベントと被った際にも「ハトヤWSの方に行きたい」と本企画への思いを話していた。ハトヤ店主は「子供と一緒に遊ぶ企画をずっとやりたかったが、一人ではできなかった。ひとつ夢が叶ったような気持ち」と話した。



【赤井沢】

「かつつん」の青い抽象画に触発されて、赤井沢の柱を青く染め上げるようなインスタレーションを企画。かつつん、松根くんと一緒に赤井沢で買ってきた領収書・見積書などの事務用品を支持体として、Aiスタッフみんなで描画。かつつんは履歴書や方眼紙を青や赤に染め上げ、そのほかのスタッフも絵や文字をかいいたりモノを貼ったりした。その後、パートナー大塚が柱の形状に合わせ

て模造紙を切り抜いたものに、高倉が作品を即興的に貼り付けていった。そうして完成したものを赤井沢の柱に実際に設置していると、通りがかった小学生が「赤井沢が大変なことになってる！」と反応していた。



【エンドー時計店】

Aiスタッフ「michiko」が店自慢のショーウィンドウに通行人の目を誘導するようなインスタレーションを企画。まず時計から連想したものを3種類の絵画作品に落とし込み、自身が文具店で選んだ紙に印刷して展示。しかし、足を止めてウィンドウに目を向けなければ見てもらえないので、通行者の感覚に「音」を嵌入させて足を止めさせる装置として映像作品を制作。てんかん学会期間中のスタッフ・パートナー・その他来場者に「いつも朝どうやって起きていますか」と聞いていくインタビュー映像を撮り、編集ソフトを使用してそれらをつなぎ合わせた。映像編集は初挑戦とのことだったが、複数の映像を接続し、不要な箇所をカットするところまで経験した。



【び〜わん】

店舗窓面に「白戸健」の絵画を展示。最初は白戸が「び〜わんに合うだろう」と選んだ和風テイストの具象画のみを展示する予定だったが、むしろ白戸作品の奥行きを示すため、デジタル技術を実験的に用いながら作り続けている抽象画の連作も展示することを提案した。抽象画は透明なOHPフィルムに印刷して窓面上段に、具象画は白戸自ら文具店で紙質にこだわって選んだ紙に印刷して窓面下段に貼り付けた。展示期間中、店主から「店内も使っていい。ほかの作品も持つ

てきてもらえば」と意欲的な発言があったため、白戸はテイクフリーのポストカードを追加で持って行った。



【ファッションウェアたむら】

店主からは、すぐ近くに小学校があるため「子供が楽しめるような展示を」との希望があった。店舗が設置した「まちの掲示板」を場所として、アーティスト「コウセイ」とパートナー遠藤とともにキャラクター絵画の展示を企画。B1サイズの掲示板のおおきさに合わせて人気漫画のキャラクターを寄せ集めて並べた絵画をコウセイが制作し、実際に掲示してみると、学校帰りの小学生・中学生が「カオスすぎる!」と立ち止まって面白がったり、店主も写真をFacebookに投稿して好意的な反応を示していた。



Ai本祭

2020年からコロナのため、マルシェは長町駅前広場で行い、ステージはオンラインで行い、これを会場に配信するというかたちをとってきたが、2022年はすべて長町駅前広場でリアル実施する一方で、コロナの中で培ったハイブリッド形式を活用、リアルステージのようすをオンラインで配信するというかたちをとった。

16人・団体が出店したほか、12人・組によるステージ、アートワークショップ、メンコ・ベーゴマ大会、ボッチャ体験、アイドル撮影会を行なった。

実に3年ぶりとなるリアルステージに出演者たちは大きな手応えを感じていた。



(3)国内外の他団体・企業との交流・協働事業

① 家族で話そう！

障害者本人への支援は充実しつつある一方で、障害者の家族を支援する制度はいまだ未整備である。これを補完する取り組みとして、いわゆる「家族会」とはちがったあり方の場を構築してきた。2021～2022年度は月1回開催しているAiオンライン企画の中に場を設け、家族の思いをみんなで共有する場を設け、映像やそれを書き起こした文字としてアーカイブも行った。

② ほっぷの森との連携

長町時代よりびすた～りには展示場所やステージ発表の場を提供してもらっており、フードマーケット、café Jho Jhoにも常設展示の場を提供してもらっている。2021年からはほっぷの森理事の菊田氏が当法人の理事に就任。2021年夏からは、音楽プログラムを担当する及川久美子氏の企画で「びすた～りMonthlyコンサート」のおり、壁面展示を担当している。2022年度も毎月、アート・インクルージョンの表現者を個人もしくはグループで取り上げた展示を行なった。Ai

GALLERYをコロナのため閉めていることもあり、リアル個展開催の貴重な機会になっている。また、当法人の門脇代表理事がほっぷの森理事に就任し、2023年度から始まる「ほっぷの森カレッジ」では副学長を務めている。2021年度後半から始まった「表現のプログラム」では、アート・インクルージョンで培った知見を活かし、さまざまな表現活動に取り組んでいる。2022年度後半はほっぷの森に複数のiPadが導入されたものの、あまり活用する機会がないとの話を受け、またほっぷの森カレッジという法人として大きな転換点にもあたることから、「ほっぷの森って、どんなところ？」をテーマにした映像をグループワークで作り上げるという企画を半年にわたって実施。アート・インクルージョンからはパートナーの大塚・高倉両氏が映像制作サポートに入ったほか、スタッフ松音くんもナレーター役などで協力。両団体のプログラムを通じた交流を行なった。

③第55回日本てんかん学会学術集会アート企画「わたしがわたしでいられるところ」の企画・運営

2022年9月19～22日、日本てんかん学会による学術集会が仙台国際交流センターで行われることになり、東北大学教授で仙台大会の責任者を務める中里信和氏より「これまでてんかんアート展という名前で当事者や家族による絵画展を行なってきたが、毎回同じことの繰り返しで新味に欠け、やる意味を見いだせない。何かおもしろい企画がないでしょうか」との相談を受け、福祉サービス事業所の日常を展示するプランを提案したところ、「ぜひやりたい」ということになり、仙台市内3事業所合同で4日間にわたり、仙台国際交流センター会議棟を使って、作品展示と公開制作を行なった。

会期中は精神科医の学会会員をはじめ一般市民も訪れた。また、職員の行き来はあれ、利用者どうしが大人数で合同でいっしょに過ごしたり、互いの制作を見せ合うという場はこれまでになく、大いに刺激を受けた。さらに、「アート」について、どこかひとごとであった職員が、この場に身を置くことで「アートとはこういうことか」と合点がいき、その後の支援活動に積極的な影響を与えたという報告もあった。

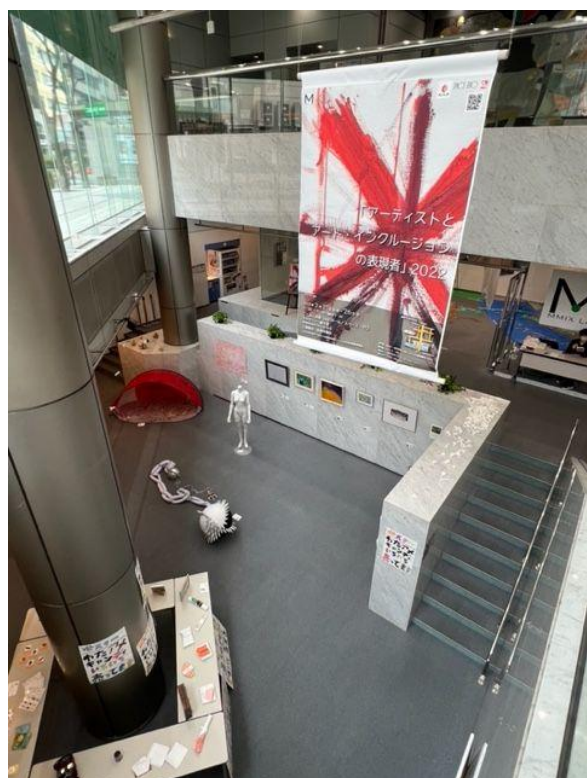
本事業ではアート企画のほか、学術集会のフライヤー、ポスター、リーフレット、アート企画のWebサイトなどのデザインも担当した。



④MMIX Labとの連携事業

文化庁委託事業「障害者等による文化芸術活動推進事業」として、数年前からMMIX Labと連携し、アーティストとの制作や東京ほかでの展示活動を行なってきた。

2022年度は全労災ホールスペースゼロ(東京)で、アート・インクルージョンのほか、てんかん学会で合同で公開制作を行なったわらしべ舎羽黒台工房、多夢多夢舎中山工房、そしてアートセンター画楽の表現者を紹の4事業所での合同展示を行なった。



⑤インドネシアとの交流・協働事業

2016年よりインドネシアのアチェとアートによる国際交流事業を行なっている。

2022年度はアチェにあるインクルーシブスクール「アチェ・フレキシ・スクール」とオンラインでの交流を行なった。

4. アートによる仕事づくり事業

アートによる仕事づくり事業ではパートナー佐々木桂を中心にスタッフの制作した作品を用いたグッズ・コンテンツを開発。パートナー高橋尚子を中心に自主企画のマルシェ・アートプロジェクトの企画を行った。21年度に生産したTシャツの在庫を売り切るため22年度はTシャツの生産を休止した。新柄のTシャツがないことで1回の販売会の売り上げ金額が落ちているが、パートナー洞口真喜子を中心に外部主催販売会へ積極的に参加することで売り上げは大幅に増加した。2020年度から仙台市市民文化事業団の助成を受けて行なっている「アートを仕事にするネット

ワーク環境形成事業」では、地元のクリエイターや企業、福祉事業所、アーティスト達との連携によって新たなネットワークと仕事を創出している。

(1) グッズ・コンテンツ開発および販路の開拓

プリント額絵、手作りノート、あぶらとり紙、缶バッジ、サキオリマット、サキオリなべしき、ボールペン、シャープペン、フレークシール、カラフルわたあめ、カレンダー、年賀状、マルチクロス、音楽コンテンツ、オンラインライブ、フライヤーデザイン、ウェブデザイン、楽楽楽文化祭でのワークショップ企画運営、みんなのマルシェ、リハビリテーション講習会での配信業務などコンテンツ開発・販売を行い、主催事業、協力店舗、ネットショップ「Aiマーケット」「Aiマーケットin SUZURI」での販売を行った。パートナー洞口真喜子を中心に2021年度年の冬から参加し始めた河原町マルシェへの月一度の出店、行政の主催するふれあい製品フェアへのコンスタントな参加など販売の機会を増やしていくことで売り上げ増加は勿論、知名度の向上も感じられた。販売の機会が増えることでスタッフが販売業務に前向きに当たること、付随する商品の制作・準備も増え、多様な仕事内容をいつでも選択できる環境が作られつつある。Tシャツの開発を見送った分、中～高価格帯商品として布ハンカチ、みつろうラップを開発。手頃な商品展開としてステッカー、合同会社サボコマースによるAiオリジナルパッケージのマヌカハニーべっこうあめ、マヌカハニーレモンキャンディが新たなラインナップに加わった。価格が1200円と手頃かつ安過ぎないハンカチは様々な販売会で売上アップの助力となった。次年度は在庫を調整しやすくするために型数、サイズを絞った展開でTシャツの新柄を開発したい。



2022年度販売会毎の売上

時期	販売会名	2022年度	2021年度
4月	河原町マルシェ	9,350	
	ふれあい製品販売会	2,600	
	Aiファクトリー@一番町	27,250	

5月	河原町マルシェ	19,910	
	ふれあい製品フェア	4,240	
	Aiファクトリー@一番町	雨天中止	72,660
	福の市	10,130	
6月	ふれララ	18,600	
	FUJISAKI DAY	55,700	
	Aiファクトリー@一番町	14,320	25,680
	ふれあい製品フェア	10,790	
	Aiどんどこ市2022	売上 39,130 出店料	売上 79,980 出店料 20,000
	福の市		22,840
7月	ふれあい製品フェア	10,890	
	河原町マルシェ	8,820	
	塩釜魚市場マルシェ		4,190
	暮らしの市 夏	22,120	
	ともに みんなのアート展	34,120	
	Aiファクトリー@一番町	開催なし	36,400
8月	河原町マルシェ	7,840	
	ふれララ	12,580	
	まちスポ		17,260
	中本美術館ファッションショー	8,870	
9月	Aiファクトリー@一番町	12,370	
	河原町マルシェ	13,380	
10月	せんだいクラシックフェスティバル	29,610	12,950
	アート・インクルージョン2022 Ai本祭	売上 35,790 出店料 18,360	売上 52,460 出店料 14,320
	アート・インクルージョン2022 Ai month	27,196	0

	manaby フェス	15,250	
	河原町マルシェ	11,280	
	DATENA SENDAI COLLECTION	11,370	
	Aiファクトリー@一番町	10,780	17,900
	みんなのマルシェ	22,920	30,240
11月	河原町マルシェ	7,250	
	ふれうら	8,280	
	暮らしの市 秋	12,740	
	Aiファクトリー@一番町	開催なし	11,080
12月	楽楽楽文化祭プレ企画 クリスマスマルシェ	売上 24,400 出店料 12,629	売上 11,000 出店料 18,322
	河原町マルシェ	11,300	14,350
	長町夜市		5,720
1月	楽楽楽文化祭2023	売上 30,190 出店料 14,887	売上 13,600 出店料 14,570
2月	ひだまりのギフト展	34,440	37,170
3月	AとW	31,300	
	合計	700,353	532,692

(2) アートを仕事にするネットワーク環境形成事業

昨年度に引き続き、多夢多夢舎中山工房、わらしべ舎羽黒台工房と、渡邊デザインと共催しアートを仕事にするネットワーク会議を9月から月一度のペースで実施。10月ごろよりDIY STUDIOが新たに参画した。お互いの事業所やアトリエを見学するツアー、街中へ出かけての市場調査、インターネットを用いた発信、ファンドレイジング講座などを開催。学び合いを通して、各事業所ごとクリエイターと協働し商品のプロトタイプ、近場での販売で利用できるスチール棚を改造した屋台を制作した。



①Aiファクトリー×DIY STUDIO

KASUMIが木片にハンドペイントしたオブジェから着想を得て、スツール、壁掛け時計、置き時計を制作。

コロナ禍を経てインテリアにこだわる人が増加することで既製品とは素材感や色彩を楽しむことのできるアートやオブジェの需要が高まってきているので、取り入れやすい用途を伴ったアイテムを制作した。





②多夢多夢舎中山工房×TEXT

アウトドアが流行しているが、自分が欲しいと思う柄のアウトドアグッズはあまり見かけない。多夢多夢舎のアーティストの絵柄なら可愛くなるのではないかとというリクエストに対して、TEXT大江よう氏よりナイロン生地にインクジェット印刷してみてはどうかと提案があり、4柄のテキスタイルをデザイン、制作した。

日本に1台しかない印刷機を用いてナイロンにポリウレタン加工された生地「CORDURA(コーデュラ)」にインクジェット印刷、透け感がインパクトのある絵柄を軽やかに見せてくれる新しいテキスタイルが完成した。





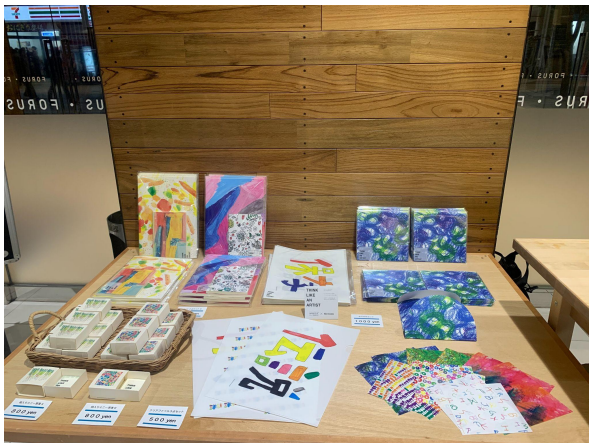
③わらしべ舎羽黒台工房×渡邊デザイン

「ユニークアートというブランドの方向性」に着目し、一般の人たちにも広がるよう手に取りやすいロゴ、自前のガーメントプリンタで制作するTシャツデザインのフォーマットを開発した。外部のプロの手が既存の商品やロゴに入ること、プロトタイプ制作に関わっていない職員たちからも商品開発に注目が集まり、通常難しいブランドイメージの共有を叶える土台ができた。





事業報告展「アートとしごとラボ2023」をぶらんど〜む一番町アーケード内で開催。隣接する仙台フォーラス1Fの催事スペースにて今事業から派生した合同POPUP STORE AとWを出店。3事業所の商品と3事業所のアートを用いた商品(制作:株式会社ユーメディア)を販売した。昨年繋がったネットワークはゆっくりと広がりながらその関係は醸成されてきており、制作したプロトタイプは昨年度以上により実際に販売できる可能性を感じられるものとなった。わらしべ舎羽黒台工房は2023年度5月より実際に販売を開始予定。AiファクトリーはDIY SUDIOでの委託販売を目指して引き続き協働での試作を続ける。



(3)その他ソフトコンテンツ事業

①リハビリテーション講習会配信事業

「どんまいネットみやぎ」が主催する「リハビリテーション講習会」がコロナのために2020年度からオンライン開催となっており、アートインクルージョンではその配信業務を請け負っている。毎月のオンライン企画で培ったスキルを用いて担当スタッフが事前録画および2023年1月の配信業務を行った。

②楽楽楽文化祭2023

【会期】2023 年1 月22日(日)、巡回展2023年4～5月

【会場】仙台市太白区文化センター

【内容・成果】

本事業は太白区文化センターが2018年に開始した同センターの自主事業である。アート・インクルージョンは立ち上げ当初から、「鑑賞型ではない参加型の企画をつくりたい」という同センター担当者の依頼を受け、コンセプトづくりから広報媒体の制作、ワークショップ企画の立案・運営などを担ってきた。

2020年度はコロナで開催が危ぶまれたが、「このまま何もせずに終わらせたくない。文化センターとしてできることはしたい」との同センターの思いを受け、コロナでもできることとしてワークショップとマルシェのみ開催し、ステージはアートインクルージョンからの無観客ライブを中継するというかたちで実施した。

2021年度よりコロナ対策を徹底することで楽楽楽ホールでのステージも復活。2022年度はほぼコロナ前の状態での実施となった。

企画に付随して、2022年12月と2023年1月にマルシェを行った。仙台市内の福祉サービス事業所や手作り作家が集まり、貴重な販売の機会となった。

事業終了後、2023年4月～5月にかけて仙台市内3箇所の文化センター(若林区文化センター、宮城野区文化センター、広瀬文化センター)で、前年度と同様に巡回報告展が開催された。巡回展会場でも来場者が好きに置かれたダンボールやスケッチブックを活用してよいコーナーも設け、かなり遊んだ跡が見られた。

太白区文化センターからは本事業について高い評価をいただいており、「通年型の企画もできないか」との要望があり、「アート・インクルージョンで過ごす1日」を提案。2022年度中の実施はタイミングが合わずに見合わせたが、2023年度に実施を予定している。

③藤崎百貨店との協働事業

【会期】2023 年6 月11日(土)、12日(日)

【会場】八木山動物公園フジサキの杜、藤崎百貨店本館

【内容・成果】

藤崎百貨店地域振興課の千葉氏が2021年度のアートとしごとラボへ来場したことをきっかけに藤崎百貨店との協働が実現した。コロナ禍に八木山動物公園のネーミングライツ権を獲得した(八木山動物公園フジサキの杜)藤崎百貨店が契約最終年度にイベントを開催し地域振興を図るイベント「Fujisaki day」にて5企画を企画・運営、1企画に参加した。

①アートワークショップ「みんなで作る大きなにじいろのゾウ」

動物と自然環境に関心を持ってもらう、動物園と繋がりたい地域の方々と一つになることを目的に203個のパーツをデコレーション、パズルのようにはりあわせて実物大のアフリカゾウを作り上げるワークショップを企画、藤崎百貨店花屋前にて2日間実施した。2日間ともに座るスペースが

なくなるほど多くの参加者で賑わった。実物大のゾウの型は、八木山動物園で暮らす日本最高齢のアフリカゾウメアリーを実際に採寸してもらったものをもとに制作したもので、「実物大」を体感できるアートな発想ならではの迫力があり、その後、仙台サポートセンター、びすた〜り榴ヶ岡にて巡回展示した。ワークショップの横で行った物販も大変好評だった。

②ショーウィンドウでの妄想エンジン全開娘の作品を使用した空間デザイン

藤崎入口花屋前での展示を提案された折に、外は販売とWSにして展示は館内またはショーウィンドウを使用できないか提案。。バナー、壁紙、パネル張りなど藤崎百貨店からの協力もあり、作りこんだ展示が出来た。妄想エンジン全開娘からは「満足度の高い自慢できる展示になりました！」藤崎百貨店地域振興課千葉氏からは「Fujisakidayの全企画の中でこれが一番お気に入りです。」と大変好評だった。ショーウィンドウは年間53企画も必要で、余らせている期間も多いことから、こういった機会をAiは勿論のこと、他の団体にも開いていきたいとの感想を貰った。

③めぐって学ぼうスタンプラリー！クリエイティブディレクション

Fujisakidayというイベントのなかで何が出来るのかを打ち合わせた際に諒太の動物スタンプラリーを提案。クイズは仙台ECO動物海洋専門学校が制作、台紙と印面はAiがデザインした。台紙のデザインに合わせて、看板、腰巻、サインなど追加でデザインした。スタンプラリーは大変好評で2日目は雨天中止となったがスタンプラリーを楽しみにして来場したご家族からクレームを受けるほどだった。藤崎側からも大変好評で、作品を介して協働した専門学生より「好きな動物のグッズがあれば欲しい」と希望があり受注販売に繋がった。

④アニマルアーティスト展示

藤崎本館5階子供服売り場にてアニマルアーティストの動物園をテーマにした作品を展示。お子様づれを中心に多くの方が鑑賞した。Fujisakiday当日はワークショップスペース横で「好きな動物なんでも作ります」を開催した。本人も展示ができたこと、実演で販売ができたことどちらにも満足感を感じ、実演についてはいつもより長い時間実施することができた。その後も河原町マルシェを中心に実演は継続している。

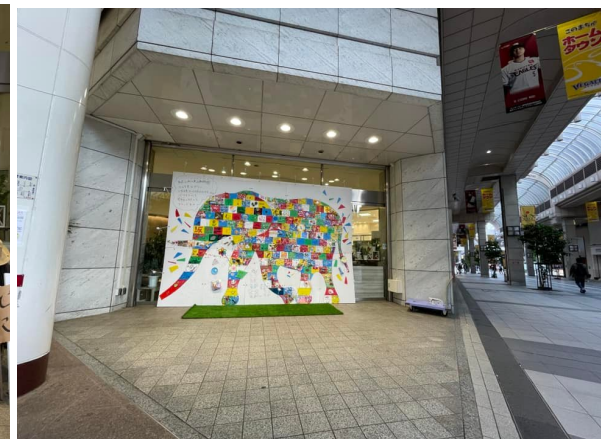
⑤Aiファクトリー×リコージャパン

リコージャパン松好氏よりコラボでAiの作品を印刷したバッグを八木山動物公園で販売しませんか？と提案があり、その後エイブル・アート・ジャパン代表理事柴崎氏よりFujisakidayを記念してしまうまの赤ちゃんエルのイラストコンペで選外の作品の中にグッズ制作に向く作品が沢山あるので何かできないか。アートを仕事にするネットワークの考え方としてもAiのみではなく様々なアーティストの作品をプリントする企画に出来ないかと相談があり、キービジュアルの本多遼さん、エルのイラストコンペ、Aiの作品、多夢多夢舎中山工房の作品合わせて10点からイラストを選び、ポーチ・ランチバッグどちらかにその場で印刷できるWSを開催。当初残るだろうと思って多めに用意した各種50枚合計100枚が完売した。普段作品が商品になることの無い他の事業所や

施設の方の作品を使用することで、その施設の職員やご家族がこぞって購入、大変喜んでくれたことが印象的だった。Ai以外のアーティストの作品を多数扱うことで、Aiの表現者たちの作品を沢山使うことは出来なかったがAiの表現者以外にもAiが持つコネクションやスキルを手数料をいただきながら提供することはまわりまわって結果として収益だけでなく価値を大きく生むことが出来たと思った。リコー松好氏からは「普段無料で行っていたWSのアレンジバージョンのような企画だったが、プリントする作品の素敵さも相まって有料でもこれだけの方が喜んで利用してくれることが分かり、とても嬉しかった。今後もぜひ予定を合わせて一緒にコラボさせてくださいとお話あり。今年度もイラストのコンペがあれば継続して実施する。

⑥ 杜のマルシェin八木山だズー！（エイブルアート企画福祉製品合同販売会）ひだまりのギフト展に参加した有志の事業所を中心に、動物に関連した商品やラッピングされた焼き菓子などセレクトしたショップを仙台屋台4台で出店。Aiは新商品のハンシャシール、バンダナハンカチ、アニマルアーティストの缶バッジ、ミニノートを出品。1日目は晴天に恵まれるも2日目は雨天で客数も3600人→360人と10分の一に。売り上げも天候に左右されたが目標金額の20万円を超えることが出来た。うち、Aiの売り上げは29,100円だった。





5. パブリシティとファンドレイジング事業「つたえる事業」

(1) 広報事業

① インターネット広報

Aiのホームページにて、参加するマルシェやイベント、オンラインライブなどの告知を行ってきた。その他、Facebook、Instagram、Twitterなどもこまめに更新し、集客を促した。

2023年5月17日現在のフォロワー状況は以下。

Facebookページのフォロワー	1609人
Instagramのフォロワー	1021人
Twitterのフォロワー	3441人
YouTubeのチャンネル登録者数	426人(この1年で30人の増加)

このほか、関連するSNSの運営としては以下の通り。

Ai GALLERYのFacebookページフォロワー	248人
アイドルyuka*のFacebookページフォロワー	216人
アイドルyuka*のTwitterフォロワー	2445人
アイドルyuka*のInstagramフォロワー	256人
たかぴーと高倉悠樹によるInstagram「たかぴい商店」のフォロワー	68人
アートを仕事にするネットワーク環境形成事業のInstagram「net_make_art」フォロワー	185人

② 読売新聞取材協力とAiについての連載

約2年間にわたりAiを取材し続けていた読売新聞社の高倉正樹記者による連載記事が読売新聞の県内版に掲載された。令和5年1月23日に連載開始し、不定期掲載で全15回に渡って掲載され、Aiの活動内容について、かなり詳しい報道がなされた。

今後これを活用した活動の普及に努めていきたい。関係者のみなさまにもぜひ大いに活用していただきたい。(記事は別添)



③Aiファクトリー紹介動画の制作

アート・インクルージョンの取り組みについて、あまりに多くのコンテンツがあるため、どれを見ていいのかわからないという声があり、短い映像でコンパクトにまとめたコンテンツを作ることが喫緊の課題だった。7:19の紹介映像が完成し、展覧会等で活用しているほか、YouTubeでも公開している。

<https://youtu.be/AHifRzWccJY>

この動画を公開してからの視聴回数は 215 回です



2023年5月17日現在で215回再生された。

④オンラインライブの配信とダイジェスト制作

毎月1回開催しているオンラインライブを広く周知し、チャンネル登録者を増やすべく、気軽に観られるダイジェスト版の作成を行った。普段のオンラインライブは4,5時間以上かかるが、ダイジェスト版は1本につき10分程度の観やすくコンパクトなものとした。掛かる制作費は公益財団法人仙台市市民文化事業団「2022年度 文化芸術の創造・発信・普及助成事業」の助成を受けて制作

した。

制作したのは次の通り。

配信コンテンツ	公開アドレス
第1回	https://youtu.be/soZj5f3jq7I
第2回	https://youtu.be/2-jmz-L-i4Y
第4回	https://youtu.be/3U31SqWFYUQ
第5回	https://youtu.be/3m9EFs5BP8Y
第6回	https://youtu.be/bRX5_2GghnU
第7回	https://youtu.be/BtWZHBwojgU
第9回	https://youtu.be/rkV9cCCZDCc
第11回	https://youtu.be/QmsJVqEv_-c
第13回	https://youtu.be/zpk9hyWqaFI
第15回	https://youtu.be/i1iSxw-LXLA
第17回	https://youtu.be/qkgqaObQVOk
第19回	https://youtu.be/TA2nBYODIRg
第21回	https://youtu.be/CGIfsii19qY
第23回	https://youtu.be/LUuAOkZlYos
第24回	https://youtu.be/Uy4T3-MFK2Y
第25回	https://youtu.be/n9hub1gFDcY
第27回	https://youtu.be/BKγBK3h8bEc
第28回	https://youtu.be/OrTfjc2Hxzo
第29回	https://youtu.be/CNLfdhN3yTA
第30回	https://youtu.be/I-0ZSEH0Ael
第31回	https://youtu.be/dQFsXn_urII

ねらい通り、ダイジェスト版は好評で、本編との相乗効果で再生回数に伸びが見られる。ダイジェスト版を公開し始めた期間を含む直近2月～5月の90日間では、視聴回数で前年比52%、再生時間で62%、チャンネル登録者数では実に550%の増となった。

チャンネル アナリティクス

概要

コンテンツ

視聴者

リサーチ

過去 90 日間のチャンネル視聴回数は 3,785 回です



(2)ファンドレイジング事業

①みやぎチャレンジプロジェクトへの参加

赤い羽根共同募金が主催する社会課題解決「みやぎチャレンジプロジェクト」助成事業に参加した。

これは、喫緊に解決しなければならない社会課題解決のための支援活動を県内において行っている団体の参加のもと、社会課題を解決する必要性を広く県民にアピールしながら、その活動資金の為に寄付の呼び掛けを行うものであった。アート・インクルージョンは目標額50万円のところ、109.5万円もの寄付を受け付けた。

関係者による支援のほか、募金期間中に高倉記者の連載が行われたことが大きな要因のひとつではないか。

②コングラントによる資金調達

2022年度についてはコングラントによる寄付金総額は0円だった。

③シンカブルによる資金調達

一時的な寄付のほか、継続寄付が月額経費なく集められるプラットフォームとして、シンカブルの活用を開始した(コングラントの無料アカウントでは一時的な寄付しか集められないため)。

オンラインによるサポートで、キャンペーンの活用の有用性と実施後の報告の重要性についての指摘を受けた。寄付する目的が明確なキャンペーンの打ち出しと、経過報告や事後報告、それら

を回していく中で継続会員を集めていくことを目標に、パートナー菊地桃佳を中心に2022年度は2つのキャンペーンを企画・運営した。

① ギャラリー改装資金の調達 <https://syncable.biz/campaign/3291>

改装資金があと10万円足りない！（達成しました！）

寄付先 一般社団法人 アート・インクルージョン



2021年度に赤い羽根共同募金会の「みやぎチャレンジプロジェクト」で集めた150万円でギャラリーの改装をする予定だったが、改めて見積もりしたところ10万円ほど足りないことが判明し、キャンペーンを実施、達成した。

② Ai2022の開催予算の調達 <https://syncable.biz/campaign/3512>

10月のアート・プロジェクト予算が...あと20万円足りない！

寄付先 一般社団法人 アート・インクルージョン



10月の一ヶ月間、長町一帯で実施の「アート・インクルージョン2022」の開催予算20万円のうち、

印刷費以外は調達の見込がたっていなかったため、キャンペーンで調達することにした。結果は14%の達成にとどまった。

2022年度中のシンカブルを通じての寄付金総額は209,998円だった。